



自動運転に関する産学連携の取組について

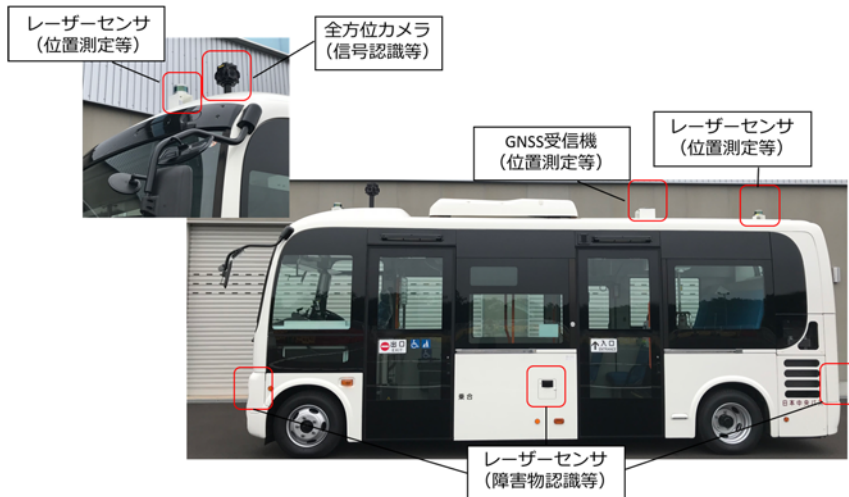
共同開発した自動運転バス車両が完成

国立大学法人群馬大学（学長：平塚 浩士、以下：群馬大学）と株式会社ケイエムオー（本社：群馬県伊勢崎市、代表取締役：神尾 将光、以下：ケイエムオー）は、地域住民の移動をより便利に、そして地域コミュニティのさらなる活発化に貢献するため、完全自動運転技術の公共交通機関への導入を検討するための自動運転バス車両を開発しました。

ケイエムオーは1986年に創業し、バスの2次架装、リニューアルサービス、特種車両の製造を行っています。車両によってそれぞれの役割をもって「働く車」が各現場で大きな働きをしてくれるよう、細部にわたる細かいモノづくりが求められる厳しさがあるが、大きなやりがいを感じられる仕事であることを誇りに感じ仕事をしています。これまで培ったバス車両に関する知識や技術、ノウハウに群馬大学の自動運転に関する知識を融合することで、自動運転バス車両製作という新たな分野の開発を可能としました。

自動車の完全自動運転（以下、完全自動運転）の実用化に向けた取り組みは世界中で加速してきており、群馬大学では、2016年10月から群馬県桐生市内で自動運転の公道実証実験を開始したことを皮切りに、同年12月に「次世代モビリティ社会実装研究センター」（センター長：太田 直哉）を設置し、群馬県前橋市や桐生市などの自治体、関連企業と連携しながら、完全自動運転車両をはじめとする次世代モビリティシステムの社会実装に向けた研究に積極的に取り組んでいます。昨今の日本の社会問題である少子高齢化や過疎化によって、これまで自家用車での移動が中心であった地方市街においては、自家用車を運転できる人や公共交通機関の弱体化などで「地域の足」が減りつつあります。完全自動運転に関する基盤技術やノウハウをもつ群馬大学は、今回、本自動運転バス車両を用いた公道実証実験に取り組み、「地域の足」としてのバス事業に完全自動運転を適用するために必要な技術やサービスの開発と、受容性の評価を行います。





※車両は自動運転レベル2での運用（運転手が搭乗し常に安全監視を行う）を想定しており、運転手がブレーキやハンドル操作を行うと、直ちに手動に切り替わる機構を有する。

※市販バス車両を自動運転に対応させるために、ブレーキやハンドルをコンピューターで操作できるように制御用モーターを取り付けている。

共同研究について

< 共同開発の概要 >

- ① 自動運転バス車両の仕様策定
- ② ベース車両への自動運転用部品の架装
- ③ 走行検証

< 共同開発期間 >

2017年8月から開始、2018年5月に完成。

群馬大学 次世代モビリティ社会実装研究センター について

国立大学法人群馬大学は、次世代自動車産業振興に資する産学官金連携イノベーションの拠点形成を目指し、2016年12月に「次世代モビリティ社会実装研究センター」を設置し、関連分野の企業や自治体、研究機関等との連携・協力関係のもとに地域社会に根付く自動運転による移動サービスの創出に向けた研究と社会実装を目指した活動を進めています。

▼研究センターホームページ <http://crants.opric.gunma-u.ac.jp/>

株式会社ケイエムオー について

株式会社ケイエムオーは1986年に創業し、バスの2次架装、リニューアルサービス、特種車両の製造を行っています。車両によってそれぞれの役割をもって「働く車」が各現場で大きな働きをしてくれるよう、細部にわたる細かいモノづくりが求められる厳しさがあるが、大きなやりがいを感じられる仕事であることを誇りに感じ仕事をしています。

【会社概要】

株式会社ケイエムオー

本社：群馬県伊勢崎市五目牛町 324-5

設立：1986年（昭和61年）

資本金：1,000万円

代表取締役：神尾 将光

▼会社ホームページ <http://www.kmo-body.co.jp>

本リリースに関するお問い合わせ先

国立大学法人群馬大学

次世代モビリティ社会実装研究センター 担当：石坂

電話：027-220-7443（直通）

株式会社ケイエムオー

電話：0270-63-0332